

松川高等学校ボランティア部

日常の平和

当たり前の日常に寄り添う活動

子ども食堂
地域ボランティア
東北支援
Etc...

おなかすいたらだれでもご飯が食べられる
友だちと一緒に勉強できる
おもいっきり遊べる
朝までぐっすりねむれる

戦争のない平和

戦争のない世界平和に寄り添う活動

日本の負の歴史「満蒙開拓」
イラクの白血病の子ども達の支援
カンボジアの子ども達の支援
Etc...

戦争をしない爆弾を落とさない
家や町を破壊しない



コロナ禍
できることを

活動概要

工夫しながら
平和を繋ぐ

1. 子ども食堂

・毎週水曜日に地域の「子ども食堂」でのボランティア
・「3.11追悼セレモニーin松川」の合同企画
コロナ禍→子どもカフェ・社協と連携し地域で食材集め
毎月家庭へ「食材配布(フードパントリー)」



2. 地域への様々なボランティア

・障がい者・高齢者・地域スポーツ・イベントへのボランティア
コロナ禍→地域に笑顔と元気を届ける
下伊那赤十字病院へ感謝のメッセージとシトラスリボン贈呈
高森キャンドルナイトのお手伝い



3. 東北支援交流継続活動

1つ目: 「花という笑顔を東北へ」(10年目)

石巻市湊小学校の避難所由来の「ペチュニア」の花の種を採種し、毎年松川高校で発芽させ、地域の方と育てて湊小学校・大川小学校・女川中学校・仮設(復興)住宅・福島県南相馬市など。ペチュニアの花のお礼がえりとして、被災された方の気持ちに寄り添いながら継続交流。

コロナ禍→「震災後避難所の方を勇気づけ、癒やしとなったペチュニア今年、そのペチュニアがコロナ禍で疲れた心を癒やしたり勇気づけたい!」との思いから、町の方に協力頂きながら育てた花の600株を東北へ贈り600株を松川町に「希望の花」として小中学生や町民と一緒に植栽

2つ目: 「くだもの里松川」のおいしい「りんごお届けする活動」(11年目)
毎年松川町のりんご農家さんにご協力頂き1000kg以上のりんごをお届けしながら交流している。りんご農家さんへのお礼として、摘果や収穫作業などを年間を通してお手伝いし、りんご農家さんとの交流も深まっている
コロナ禍→りんご農家さんのお手伝い



1. 負の歴史「満蒙開拓」の歴史を若い世代に繋ぐ活動 今年、戦後75年

・「全国高等学校総合文化祭」の時、長野県阿智村にある「満蒙開拓平和記念館」にて全国の高校生に1930年代に全国最多の「満蒙開拓団」を送出した当該地域の高校生として日本の負の歴史の側面ももつ「満蒙開拓」の史実をお伝えし、共有しあい、熱い議論を重ねた。
・その後、先輩の思いを引き継ぎ、全国初の「高校生展示ガイドボランティア」を毎月続けている
・そのために勉強会や講習会・講演会等に参加
コロナ禍→Zoomなどオンラインでの勉強会に参加



2. 国際理解・国際協力活動

1つ目: 「イラクの白血病の子どもたち」への支援:11年目

・JIM-NET(日本イラク医療ネットワーク)主催の「愛のバレンタイン作戦」に協力。他校と協力して、北海道「六花亭」のチョコレートの袋詰め作業を実施。
・西村陽子さんを講師に「イラクの現状」と国際協力のあり方の講演会実施
コロナ禍→イラクの白血病の子どもたちに贈る絵手紙作り

2つ目: カンボジアの子どもたちへの支援

・「カンボジアスタディーツアー」への参加・支援金贈呈
コロナ禍→派遣中止

3つ目: 「コスタリカスタディーツアー」への参加

・東京パラリンピックでコスタリカのホストタウンに選ばれた、松川町の協力をいただき、派遣中止となったコスタリカとのオンライン交流
松川町主催のコスタリカスタディーツアーへ参加し、海外の文化や社会、人柄に触れて、自らを成長させる
コロナ禍→派遣中止、今年のパラリンピックに向けてコスタリカとのオンライン相互交流を実施



ボランティアの3ステップ

学ぶ(learn)

満蒙開拓の勉強
東日本大震災当時の様子
イラクの現状
海外の文化

行動する(Act)

子ども食堂お手伝い
地域ボランティア
東北支援、交流
スタディーツアー参加

伝え(tell)

繋ぐ(connect)
満蒙開拓平和記念館ガイド
地域での活動発表
全国大会などへの参加

活動目的

- ・「進んで人のお役に立つ活動をする」
- ・誰もが主人公になって、誰もが引き立て役になる活動。
- ・高校生としてお役に立つために自らを高め研鑽を積む。
- ・ひとり一人が「自分で気づき」「考えて」「行動」する。
- ・活動で関わらせていただく方々の「心に寄り添って」本当に相手が何を求めているのかを「リサーチ」双方向にとってクオリティーの高いボランティアをする。
- ・ボランティア精神(ボランティアスピリッツ)を忘れず行動する。

成果、学んだ事

- ・コロナ禍で自粛生活が求められる中、「日常の当たり前の生活」ができる事のありがたさへの認識が高まり、自分たちの日々の活動に自信と誇りを持って行動できるようになった
- ・関わっている多くの方が笑顔になってくださり「幸せ」の種まきができていることが嬉しい
- ・地域の方々、被災地域の方々との年齢やジェンダーを超えた幅広い繋がりができた
- ・「人と人が繋がること」の大切さを学んだ(地域連携)(繋がる)
- ・相手の立場になって考え寄り添いながらを思いやることのできた(思いやりの心)
- ・多くの方に認められることにより「自己肯定感」や「自尊感情」「自己有用感」が芽生えた
- ・コミュニケーション能力が身についた
- ・自分で「今、何をすべきか」を考え自主的に判断し行動に移せるようになった(自主性の醸成)(考えることの大切さ)
- ・「何が正しいのか」真実を見つめる目を育てていただき「学び続けること」の大切さを学んだ(メディアリテラシー)(学びの汎用性)
- ・日々のボランティア活動から「生きる力」を育てていただき「キャリア形成」に役立っている

今後の展望

・コロナ禍で活動が制限される中、できることを創意工夫しながら with コロナの中で新しいスタイルのボランティアの方法を模索しながらお役に立てるような活動を続ける

実績

- ・全国高等学校総合文化祭プレ大会:信州総文祭にて「最優秀賞」
- ・第42回「全国高等学校総合文化祭」にて活動発表(長野県代表)
- ・ボランティアスピリッツアワードにて「北関東信越ブロック賞」(3回)
- ・熊本地震にて募金活動10万円贈呈「城主証」感謝状を頂く
- ・「りんごと花・絆プロジェクト」に関して「早稲田大学・東北大学にて実践発表
- ・「満蒙開拓」に関して、飯田市のピースミーティングにて実践発表
- ・「日頃のボランティア部の実践活動」(社会福祉協議会)
- ・石巻と松川のコラボ商品「はまりんジャム」「はまりんクッキー」の開発
- ・オリジナル「りんごジュース」開発
- ・台風19号被災地への募金活動15万円贈呈
- ・飯田南RCより「青少年功労賞」
- ・松川町町長表彰
- ・内閣府主催令和2年度「未来をつくる若者・オブ・ザ・イヤー」内閣府特命担当大臣表彰

プロフィール

モットー:「人のお役にたつことを自主的におこなう」こと
年間80回以上の活動を続けています
部員:18名(3年生9名・2年生3名・1年生6名)
男子7名 女子11名
活動日: 放課後、土日、子ども食堂など臨機応変に活動
雰囲気:和気藹々と「安心で安全な居場所のある」部活動



活動テーマ・夢

過去に学び、未来を創造
平和を繋ぐメッセンジャーになる!